



# WAVE 44号

ウェーブ

2010年12月

2・3 「青いそら」  
「つどい」報告

4 INFORMATION

## ワーカーズ紹介

### 前向きな仲間とともに何でも乗り越えるパワーあり！



#### 「ワーカーズ・コレクティブ樹(もり)」

生活クラブ生協埼玉の「くらぶメゾン」構想から生まれた「ワーカーズ・コレクティブ樹(もり)」。いくつものハードルを乗り越えようやくオープンにこぎつけたメンバーの、決意と希望の日々がいよいよ始まりました。

東武東上線柳瀬川駅は、JR 武蔵野線との連絡駅朝霞台駅から川越寄りに2駅ののどかな駅です。その駅前に建つ商業ビル1階の1画に「結(ゆい)」の荷受場所、2階の1画に志木支部の部屋と「ワーカーズ・コレクティブ樹(もり)」のレストラン「リトルキッチン樹」がありました。



10月末、「くらぶメゾン志木」が完全オープンし「リトルキッチン樹」の営業も始まりしました。

生活クラブ生協志木支部の委員だった星野代表他のメンバーは、2年前に「くらぶメゾン構想」とともに自分たちの拠点づくりに踏み出しました。その中で自分たちがワーカーズをつくと決断したのです。メンバーの生活クラブ生協への思いは大きく、生協の共同購入の形態のひとつである結の荷受をして組合員とつながり、生協の食材を使った料理を提供してその美味しさをアピールしたいという気持ちが、「樹」の形を決めました。

現在「結」の組合員は131人。2曜日の受け取り。レストランは平日の9:30~19:00日替わりランチと手作りケーキを出します。店のスペースが小さいためランチの売り上

げは大きく期待できないので、惣菜、パン、ケーキ・菓子の販売にも力を入れます。オープニングの日のメンバーははつらつと楽しそうでした。



しかしここに来るまでは山あり谷ありの日々でした。くらぶメゾン志木支部内に持つことは2回目の支部大会でやっと承認され、メゾンに同居する他団体に自分たちがワーカーズとして参加すると決断してから、まさに問題が起こらないことはないような日々でした。厨房設置は自己資金でまかなわなければならないと知り、出資金を増やし、1口1万円の賛助会員を募り短期間で目標金額を集めました。たくさんの方からアドバイスや励ましをもらい力にしました。



しかし星野さんたちを一番支えたのはやはりお互いの存在でした。何回もここまでかと思ったときに仲間からの前向きな提案がみんなを1歩ずつ前に進めてきました。

今「樹」を支えるメンバーは支部を越えて15人。これからの目標は継続です。事業を軌道に乗せ、たくさん仲間を巻き込みたいと思っています。

ワーカーズの事業をしていく中で遭遇するいろいろな事態。参考にできます。



ピカピカの「青いそら号」

## 今や、福祉は幅広い

「見守りを兼ねたお弁当お届けサービス」に  
共同募金の配分を受けました

赤い羽根共同募金、皆さんも募金したことはありますよね。この募金したお金が「青いそら」に配分されました。市民の担う新しい社会や事業のあり方がいろいろなところに影響していきます。

### お弁当配達車両がほしい！

「青いそら」では、一人暮らしの高齢者や、病気や障がいがあるために食事をつくるのが困難な人々に夕食を届けています。見守りや話し相手をかね、病気にも配慮したお弁当の配達は、メンバーの自車両を使用し様々なリスクを伴います。ときには駐車違反で摘発され、限界を感じていました。そこで、共同募金の配分申請をし、車両の整備をすすめることになりました。

### 事前調査員の福祉観は古かった？

共同募金は、多くの市民の募金を福祉に役立て、その福祉事業を担う団体に配分されています。多くは、障がい者施設などが、継続して配分を受けているようです。

私たちは、初めての配分申請で、この配分を決定している埼玉共同募金会から、事前の調査を受けました。その場での第一声は、『あなた方は、資本家ですよ、そんな団体が共同募金の配分を受けるのですか？』、『障がい者は何人働いていますか？その方たちだけが配分の対象です』でした。

そう、この上から目線の方たちは、福祉を狭い範囲で捉えている、ワーカーズコレクティブの働き方や地域に貢献する事業を行っていることも知らない。それならこの機会に旧態依然とした福祉観は払拭し、ワーカーズコレクティブがどんな団体か、そして市民が担う新しい公共の実践例をしっかりと伝えなければ...

### 求められている地域福祉

福祉といたら法律でくくられた、障がい者施設などだけでなく、私たちが日々向

き合う人々のニーズは、公的な福祉制度では救えないもの、どこも手を出さない非効率な部分です。むしろその期待は益々大きくなりつつあります。

病気や障がいで夕食をつくるのが困難な方に安全性の高い、手づくりのお弁当を配達する、人に会える場、困ったことを気軽に話し、助けを求められる場の運営も、欠かせない地域福祉であり、その領域は超高齢社会の中で益々広がっていることを、私たちは日々の業務の中で身をもって感じています。地域福祉の細かなニーズに対応するワーカーズのような団体も共同の配分が受けられるようになることは、募金をする市民の潜在的な意志でもあるのではないのでしょうか。

### 「新しい団体」と認知されました

そんな丁寧な説明をすると、「新しい団体が出てきたということですね」と理解を示し、結果、配分を受けられることになりました。

この秋から赤い羽根のついた「青いそら号」は三郷市内を美味しいお弁当を載せて走り出しました。

地域福祉を担うワーカーズの皆さん、共同募金の配分申請をしませんか？そして募金もね。

NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ青いそら  
浅草秀子

青いそら：

コミュニティレストランと福祉事業  
三郷市文化会館内 1F  
048-957-9600



## 税務調査がやってきた！

### ドキドキの2日間、追徴課税はあるか?!

「税務調査が入ると、何らかの追徴税を必ず探し出す。ただで帰ることはない」そんな事態が「つどい」にも。さあ、みなさんの経理は大丈夫ですか？

#### ● やましいことは無いけれど...

「つどい」は2006年11月に設立。3月末を決算期としているので、2006年度から2009年度まで4期の決算と確定申告をなんとか自力で頑張ってきました。

9月30日、所沢税務署の法人税課から突然の電話。やましい事はしていないつもりですが、不思議なもので何故かドキドキしてしまいます。「一週間後の10月7日、8日に税務調査に伺いたいのですが宜しいでしょうか？」との電話でした。税務調査は、そんなに急に日程が決まるものなのかなどと思いつつも必要書類を聞き準備しておきました。過去5年分の会計書類(決算書類、元帳、請求書、領収書、契約書など)が必要とのこと。

#### ● 根掘り葉掘りと厳しい質問

2日間、朝10時から午後4時まで1名の税務調査官が担当として来ました。会計書類を渡して見てもらうだけかと思っていたのですが、まず「つどい」の組織・業務の説明、次に職場見学を求められ、一通り終わると既に正午でした。

決算書類・総勘定元帳等を細かく点検さ

れ、質問されたらその場で答えるという形で行われました。確定申告書に記入した数字の根拠を問われ、すぐには思い出せず、書類を見つめて数分、やっと思い出す。そしてほっとする暇もなく、次の質問と厳しい時間が過ぎてゆきました。また、働いているメンバーの名簿も求められ、住所記載してある名簿のコピーを提出しました。

#### ● ああ、追徴課税

2日目は契約書に収入印紙が適正に貼られているかという調査もあり、税務署にコピーを持ち帰り調べとのことでした。

また、他団体と地域活動を行う際の資金提供には非常に関心が高く、寄付行為に該当するのではないかとこのことで、細かく詳細を調べられました。

結果は213,400円の追徴課税。税務署に見えないお金の流れを作らないことが重要なようです。

企業組合ワーカーズ・コレクティブつどい  
林富美代

つどい：

生活クラブ生協連合会飯能DCでの帳合事業

042-983-8011

## チャレンジ!

### 埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会フォーラム

WNJの全国会議は日常業務に追われるワーカーズにとって、自分達の働き方の価値を確認できる大きな学習の場です。でも2年に1回では物足りない(?)というわけで、「埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会フォーラム」にチャレンジします。

県内のワーカーズ・コレクティブが集い、日常の活動を報告・アピールする大交流集会です。第1回は「ワーカーズ・コレクティブができる地域貢献とは？」という投げかけで、宮城大学事業構想学部教授風見正三氏に持続可能な地域社会とコミュニティビジネスについてお話していただきます。これを受けて①食と福祉(井瀧)②法人格の意味(浅草)③新規事業(濱本)の3つの分科会に分かれます。生活の支えとなりうる働き方「ワーカーズで食べていく」をテーマにディスカッションします。\*( )内はコーディネーター

研修から進化した、(参加+学習)型の企画です。

2011年

2月26日(土)

13:00 フォーラム

17:00 懇親会

参加費 500円

参加費+懇親会費

2,000円

会場

生活クラブ生協

中浦和本部予定

(WNJの緊急署名活動に埼玉も取り組みます)

2012年度介護保険制度改定に向けて、  
訪問介護における「生活援助サービス」の保険給付継続を求める署名活動のお願い

訪問介護の「生活援助」は、「利用者の生活を支える基本的サービス」ですが、「家事手伝いの延長」と誤解され、常に介護給付抑制の対象になっています。現在進行している国の社会保険審議会での議論では、この「生活援助」を保険給付からはずしていく動きが強くなっています。

家事・介護を担うワーカーズ・コレクティブは、介護が必要になっても在宅または地域で安心して暮らせる社会をめざしてきました。「生活援助」は「身体介護」と同様に利用者の生活を支えるためになくてはならない給付であることを、これまでも強く主張してきました。

2010年12月には制度改定の骨子は決まります。今回の署名活動という緊急の行動計画をぜひご理解いただきご協力をお願いいたします。

福祉部門運営委員 井龍佐智子

(問い合わせ 埼玉ワーカーズコレクティブ連合会事務局 TEL 048-844-0221)

ワーカーズをもっと知りたい、  
もっと広めたい。  
そんな人たちのための冊子&出前講座

#### ワーカーズってなに？出前講座

ワーカーズのことを知りたい方、  
働き方に興味ある方、  
ワーカーズを立ち上げようとしている方

講師派遣します  
2時間 1万円+交通費  
(関係団体は5千円)



「第9回ワーカーズ・コレクティブ  
全国会議 in 埼玉」の記録集  
WNJ 発行 1,200円

熱い思いを  
再確認！



「ホップステップワーカーズ  
起業のためのガイドブック」  
埼玉W.Co連合会発行500円

「地域で暮らし続けるために 共に支える  
ワーカーズコレクティブの福祉事業事例紹介」  
WNJ発行500円

WNJ：ワーカーズコレクティブネットワークジャパン（全国組織です）

《あとがき》 暑かった今年の夏、救急車に2回乗って家族が大きな手術をするという事態に遭遇してしまいました。幸い家族の予後は順調、ワーカーズの仲間・友人たちの温かいたわりに恵まれていることを実感して、自分の感じ方や見方を少し深める経験ができました。来年は、いろいろなことを大切にして暮らしてゆきたいと思います。皆さまも、どうぞ無理をせずにお身体をいたわって、好い年をお迎えくださいぬ。(お)

ワーカーズ・コレクティブとは、経営と労働を自主管理・自主運営する主体的な働き方で、  
地域に開かれた労働の場を作り出すものです。

発行・・・埼玉ワーカーズコレクティブ連合会

1部 100円

発行責任者・・・後藤成美 編集・・・広報チーム 福島/齊藤 / 大塚

〒336-0031 さいたま市南区鹿手袋1-5-3 ひゅうまんポスト内 電話 048-844-0221 FAX048-838-7884

<http://saitama-workers.com/>